

# 滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

滞留水の貯蔵状況(11月25日時点)

東京電力株式会社  
平成26年11月27日

## ① 建屋内滞留水水位及び貯蔵量

- ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
- ・処理装置(第二セシウム吸着装置)は運転中

## ③ 廃棄物発生量

- ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

## ④ 処理水タンク貯蔵量

- ・淡水化装置による処理により、淡水受タンク及び濃縮塩水タンク貯蔵量は変動あり
- ・蒸発濃縮装置は全台停止中

## ⑤ 5, 6号機滞留水貯蔵量

- ・構内散水によりF・Hエリア等タンク貯蔵量は変動あり

## ① 建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約13,900m <sup>3</sup>	OP.2,809
2号機	約19,100m <sup>3</sup>	OP.2,687
3号機	約21,200m <sup>3</sup>	OP.2,752
4号機	約16,000m <sup>3</sup>	OP.2,706
合計	約70,200m <sup>3</sup>	

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約15,240m <sup>3</sup>	OP.4,306
高温焼却炉建屋	約2,020m <sup>3</sup>	OP.1,093
合計	約17,260m <sup>3</sup>	

(合計):+860[m3/4週] (合計):-160[m3/週]

(合計):-2700[m3/4週] (合計):-800[m3/週]

施設	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク SPT(B)	693m <sup>3</sup>	1,200m <sup>3</sup>
	659m <sup>3</sup>	3,100m <sup>3</sup>

(合計):-241[m3/4週] (合計):-698[m3/週]

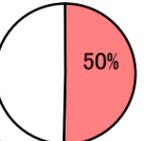
## ③ 廃棄物発生量

廃スラッジ



保管量:597/700[m3]※3

使用済ベッセル



保管量:1284/2549体 ※1

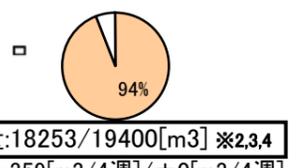
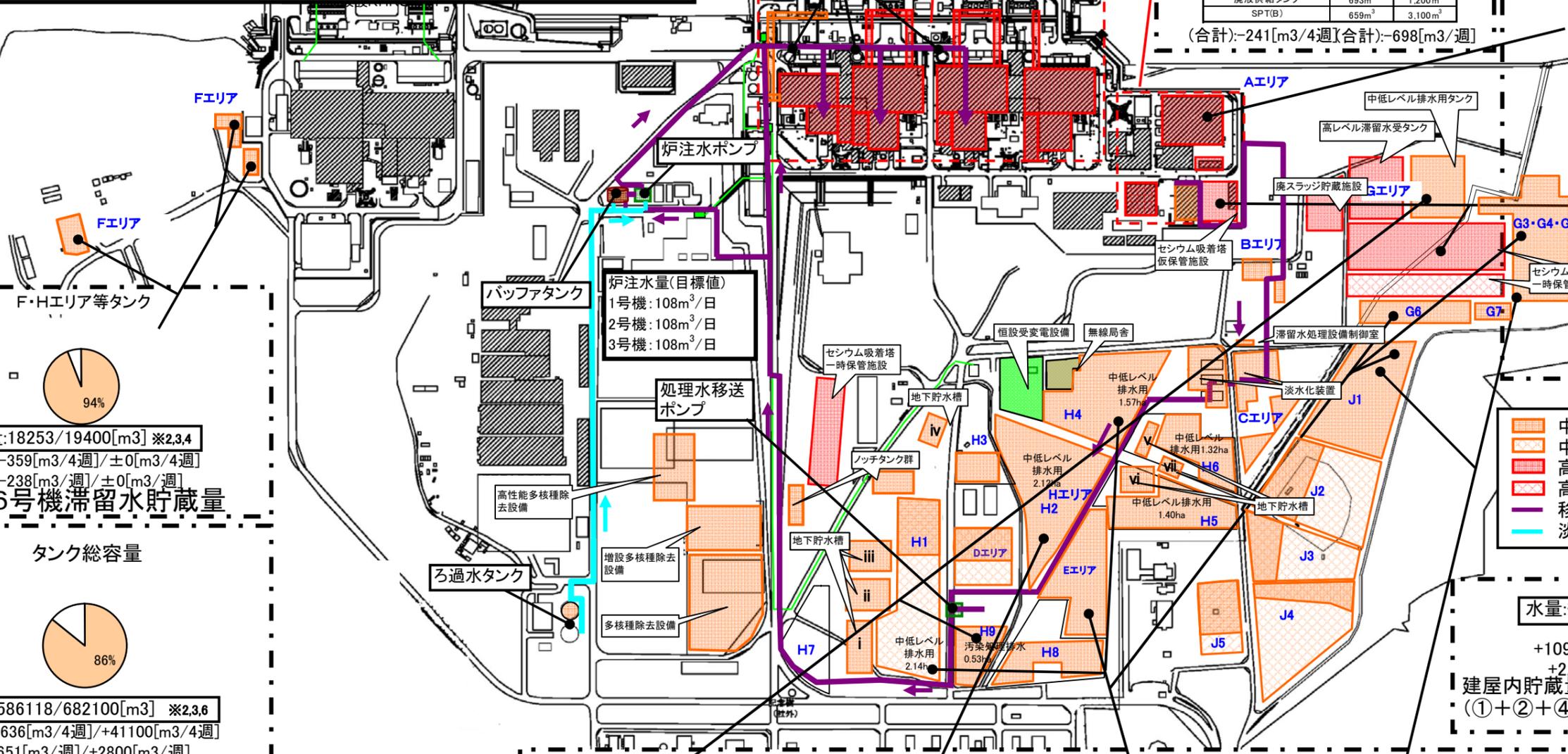
- 中低レベル(既設)
- 中低レベル(追設予定)
- 高レベル(既設)
- 高レベル(追設予定)
- 移送ホース布設ルート
- 淡水注水ルート

水量:約656677[m3]

+10914[m3/4週]

+2231[m3/週]※7

建屋内貯蔵量+処理水タンク貯蔵量  
(①+②+④)



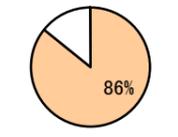
水量:18253/19400[m3] ※2,3,4

-359[m3/4週]/±0[m3/4週]

-238[m3/週]/±0[m3/週]

## ⑤ 5, 6号機滞留水貯蔵量

タンク総容量



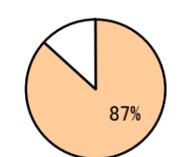
水量:586118/682100[m3] ※2,3,6

+12636[m3/4週]/+41100[m3/4週]

+3651[m3/週]/+2800[m3/週]

## 貯蔵量合計(④+⑤)

## ④-a 淡水受タンク

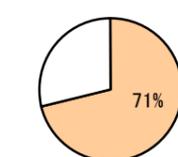


水量:23806/27500[m3] ※2,3

-502[m3/4週]/±0[m3/4週]

-94[m3/週]/±0[m3/週]

## ④-b 濃縮廃液貯槽

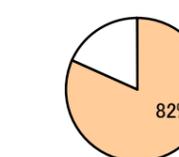


水量:9040/12700[m3] ※2,3

-169[m3/4週]/+3200[m3/4週]

-111[m3/週]/±0[m3/週]

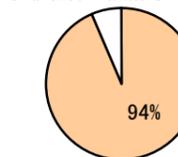
## ④-c 濃縮塩水受タンク



水量:324438/397600[m3] ※2,3,6

-3862[m3/週]/±0[m3/週]

## ④-d 処理水貯槽

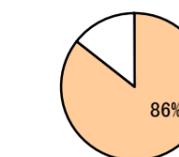


水量:210581/224900[m3] ※2,3,5,8

+36400[m3/4週]/+36800[m3/4週]

+7956[m3/週]/+2800[m3/週]

## 処理水タンク総容量



水量:567865/662700[m3] ※2,3,5,8

+12995[m3/4週]/+41100[m3/4週]

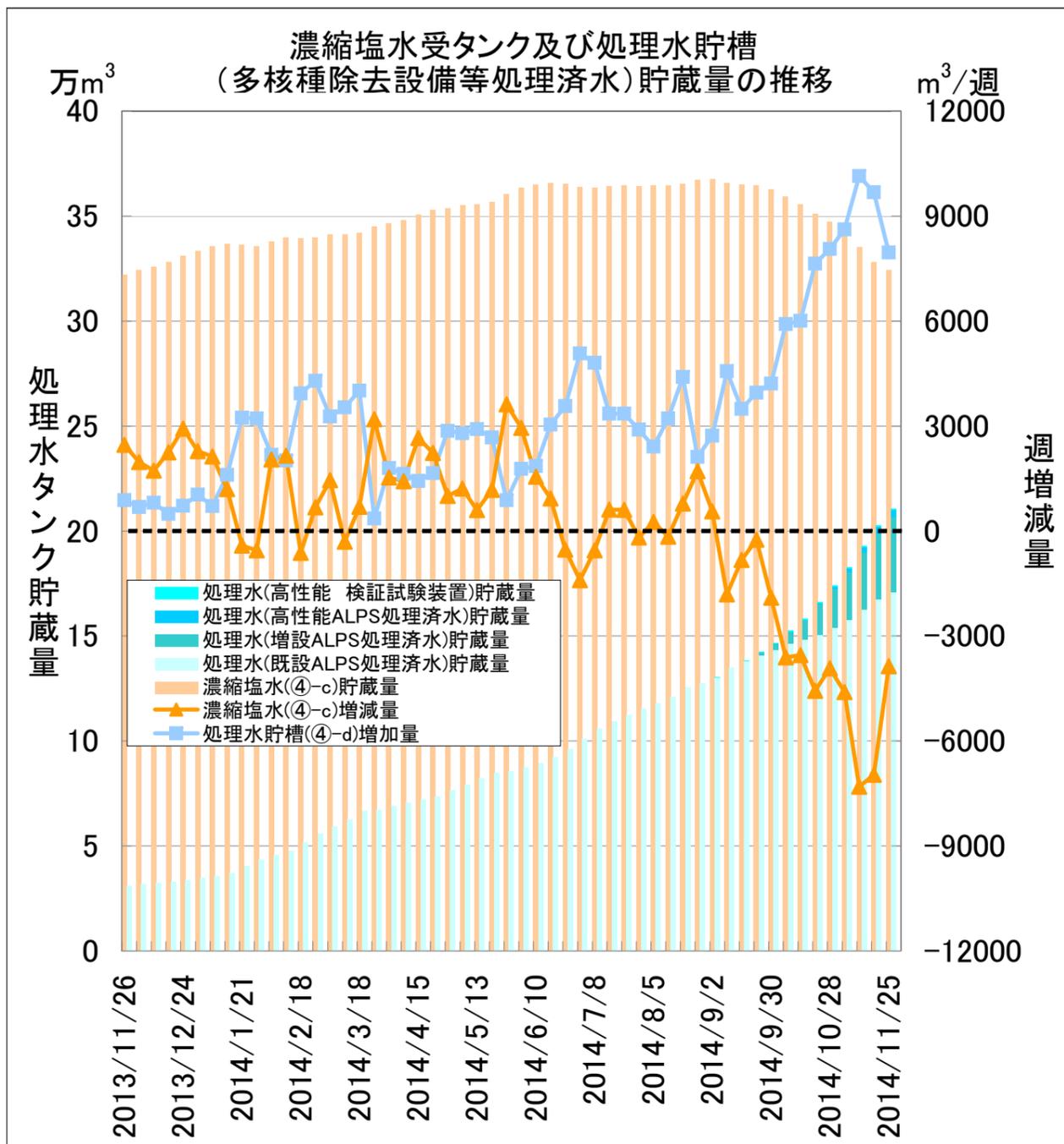
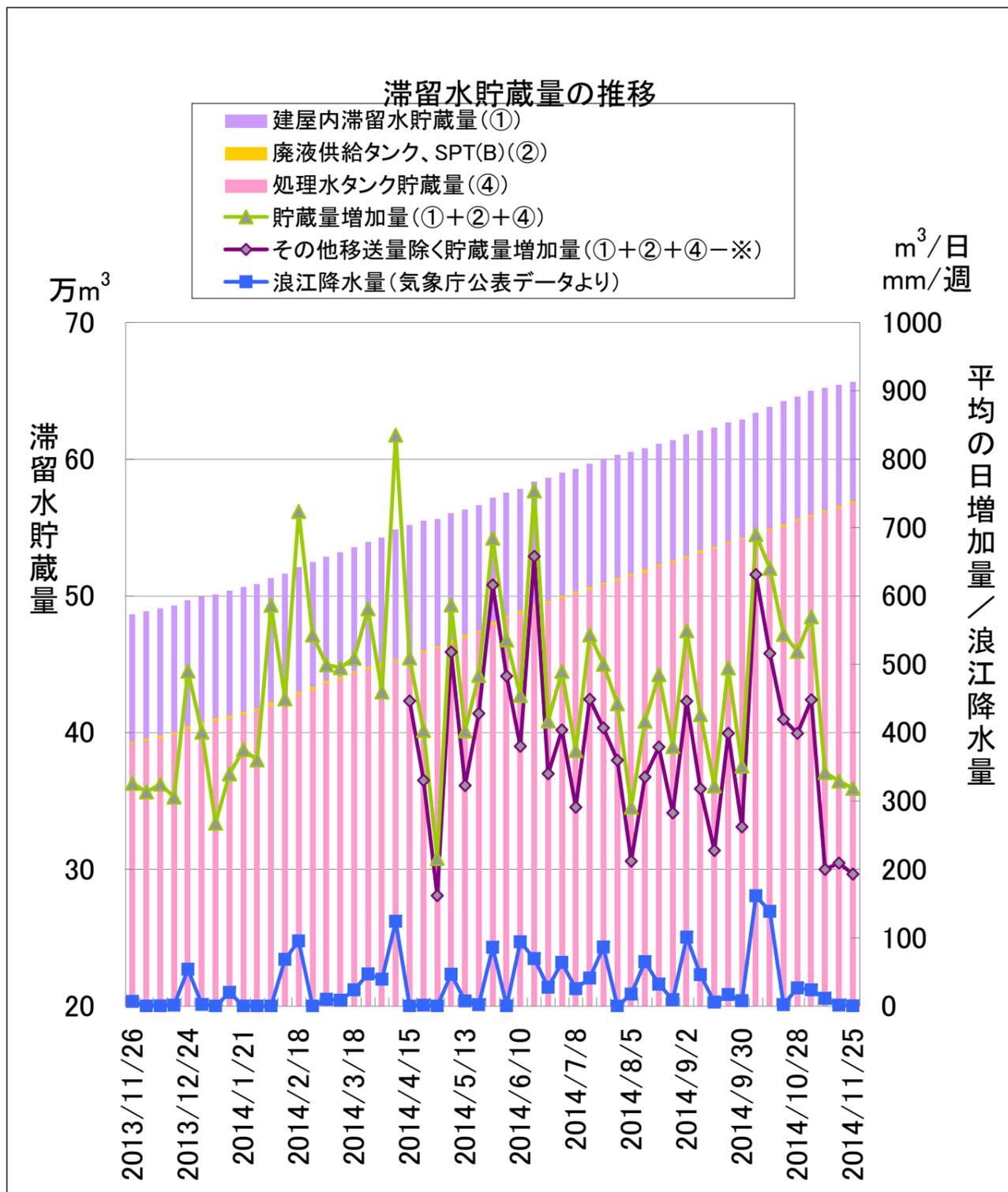
+3889[m3/週]/+2800[m3/週]

## ④ 処理水タンク貯蔵量

タンク堰内水の一時貯留量  
・ノッチタンク群 約1800(±0[m3/週])/約4900[m3]  
・地下貯水槽vii 約100(-100[m3/週])/約4000[m3]

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理コラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む  
 ※2 装置稼動中につき水位が静定しないため参考扱い  
 ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てして表記)  
 ※4 Hエリアのタンク(約3,000m<sup>3</sup>分)を5,6号機滞留水に使用  
 ※5 多核種除去設備(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵  
 ※6 地下貯水槽を含まない。ろ過水タンクの貯蔵容量(4,600m<sup>3</sup>)を含む  
 ※7 ウェルポイント(約550m<sup>3</sup>/週)、サイトハンカ建屋からプロセス主建屋(約210m<sup>3</sup>/週)の移送量約760m<sup>3</sup>/週を含む  
 ※8 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む

# 滞留水の貯蔵状況の推移



処理水貯蔵量	累積貯蔵量	期間貯蔵量		定格処理量
	[m <sup>3</sup> ]	[m <sup>3</sup> /週]	[m <sup>3</sup> /日]	[m <sup>3</sup> /日]
既設多核種除去設備	170,820	3,375	482	750以上
増設多核種除去設備	35,703	4,581	654	750以上
高性能多核種除去設備	3,378	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	680	0	0	50

- ①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋)
- ②: 廃液供給タンク、SPT(B)
- ④: 処理水タンク貯蔵量([④-a淡水受タンク]+[④-b濃縮廃液貯槽]+[④-c濃縮塩水受タンク]+[④-d処理水貯槽])
- ※: ウェルポイント汲み上げ量、海水配管トレンチへの水投入量、多核種除去設備薬液注入量の合計